☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

丹波新聞　平成２９年７月２７日（木）

芦田君が全国大会へ

氷上西高ライフル射撃部　「表彰状持って帰る」

氷上西高ライフル射撃部の芦田太一主将（3年）が、28―31日にかけて広島市で開かれる「全国高校ライフル射撃競技選手権大会」に出場する。自身初の全国大会。「高校生活最後の公式戦。上位に食い込み、表彰状を持って帰りたい」と同校初の入賞（8位以内）をめざす。（足立智和）

全国大会での健闘を誓う芦田太一君＝氷上西高で

「ビーム・ライフル立射60発」の部に出場する。10㍍先の的を目がけ、光線銃を60発撃ち、合計点を競う。10点は直径1㍉。10点ゾーンのさらに中心を撃つと最大で10・9点になり、1発で「10点以上を出す」精度を高める練習をしてきた。

5月の県予選では自己ベストタイの614・1点で4位に終わったものの、1人が全国大会を辞退し、3枠目が転がり込んだ。全国とは別に行われた近畿大会では606・5点と本選8位ながら、順位決定のファイナルで181点をマークし5位と、昨年秋の近畿大会6位から1つ順位を上げた。

「競技人口が少ないから下手な人が多い訳ではなく、大会で上位に入る人は上手で、ファイナルに行ける人はすごい。自分もそこに行きたいと思っていたが、行けると思っていなかった。去年の秋に近畿で結果が出たのが自信になった」と自身の成長を振り返り、「全国に出られるビッグチャンス。乗っていきたい」と抱負を語った。

同部3年生は芦田君1人。2年生は部員ゼロ（1年生は10人以上入部）で、1人で練習してきた。寸分違わず同じ動きができるよう基本動作の反復練習をひたすら続けてきた。